

病院協会会報

2021. JAN.

vol. 62



「より良い医療の提供を行うとともに、
市民の健康増進に貢献することで、
市民の信頼に応えます」
焼津市立総合病院（焼津市）

「ヒューマニズムとアカデミズム
—真に人に優しい医療を目指して—
浜松労災病院（浜松市）



Contents

年頭所感

- 毛利 博会長（藤枝市立総合病院 事業管理者）・・・2
- 令和2年度静岡県救急医療功労者知事表彰・・・3
- 要望活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 時言：「風評被害」
- 伊藤孝副会長（聖隷沼津病院 病院長）・・・4
- 時言：「コロナ禍における歯科の役割」
- 小澤照雄理事（一般社団法人静岡県歯科医師会 副会長）・・・5
- 研修会開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

- 令和2年度臨時総会を開催しました・・・・・・・・・・8
- ふじのくに医療勤務環境改善支援センター
ホームページの運用を開始しました・・・・・・8
- ふじのくに医療勤務環境改善支援センターの
アドバイザー派遣を受けて・・・・・・・・・・9
- 病院紹介
- 焼津市立総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 浜松労災病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
- 第60回静岡県病院学会のご案内・・・・・・・・・・14

公益社団法人 静岡県病院協会

ホームページ URL : <http://www.shizuoka-bk.jp> / E-mail : web@shizuoka-bk.jp

年 頭 所 感

公益社団法人静岡県病院協会会長
藤枝市立病院事業管理者
毛利 博



新年明けましておめでとうございます。本年が、皆様にとってより良い年になることを心からお祈り申し上げます。

去年は、新型コロナウイルス感染症に始まり新型コロナウイルス感染症で終わった1年でした。静岡県は第1波、第2波ではあまり大きな影響を受けずに済みましたが、第3波では大変な状況になり、院内感染などで苦慮した病院が多かったように思います。まだまだ予断は許しませんが、連携を強化していきこの苦難を乗り越えていきたいと思えます。皆様におかれましてはさらなるご支援をお願いいたします。今年から新型コロナワクチン接種が始まり、静岡県では3月より医療者から接種が開始されると聞いております。その効果に期待しているところですが、副作用の問題が十分に解決しておらず苦しい局面が続くのではないかと懸念しています。次回の医療計画のなかで感染症が大きく取り上げられると思えます。どのように感染症病棟を維持していくかを真剣に考える時ではないでしょうか。また、コロナ感染症による医療崩壊が叫ばれていますが、国は民間病院に対して自治体が強い権限が出せないことが問題だとするような報道もあり、今後の医療体制の根幹にかかわることが起こるかもしれません。

地域医療調整会議は新型コロナウイルス感染症の影響で実開催があまりできなかった医療圏が多かったと思います。その結果、すべての議論が先送りされているように感じます。しかし、新型コ

ロナ感染症の対応で体力が奪われてきている病院においては、真摯に向き合っておかないと重要な局面を迎える可能性が排除できません。「働き方改革」が医師にも適応される期限が徐々に近づいています。地域医療調整会議で、医療連携、病床の適正化を早急に議論し方向性を定めおかないと、かなり厳しい事態になることが考えられます。また、新型コロナウイルス感染症の影響で議論が止まっているように感じます。病院協会は、浜松医科大学、県、県医師会と密接に連携して、地域医療調整会議にも参画しながら医療体制が適正に維持できるようにしていきたいと思えます。大変難しい課題ですが、避けては通れないので、皆さんからの幅広い意見、疑問をお聞きして、病院が求められていることを抽出し、適切に対応できるようにしていきたいと思えます。

静岡県では、2040年には推計人口が310～340万人になり、100年後には200万人余になると言われています。今後、医療圏の存在自体も議論になってくる時代が到来することが予測されます。将来を担う若い人たちのためにも、真摯に議論し、よりよい医療体制を皆さんとともに構築していくことが重要ではないでしょうか。

新型コロナウイルス感染症が早期に終息し、本来の医療提供体制が再構築され、県民が安心して過ごせる社会の実現に向かって力を合わせて邁進していきたいと思えます。本年もよろしくお願いいたします。

【令和2年度静岡県救急医療功労者知事表彰（協会推薦）】お祝い申し上げます

被表彰病院 独立行政法人労働者健康安全機構
浜松労災病院

表彰日 令和2年9月7日

静岡県健康福祉部藤原部長から、鈴木茂彦院長に表彰状が授与されました。



【要望活動】

『新型コロナウイルス感染症対応について緊急提言・要望提出』

当協会では、新型コロナウイルス感染症対応について、静岡県や静岡県議会自民改革会議に対し、病院の実情を伝え、静岡県の医療体制構築や診療報酬の臨時的引き上げ、宿泊療養施設の確保、検査の充実・支援、ワクチンの円滑な接種等の提言提出・要望活動を行っています。

静岡県知事への提言（令和2年4月14日）

静岡県医師会と連名で提出

静岡県議会自民改革会議への緊急要望（令和2年8月25日）



静岡県知事への提言（令和3年2月12日予定）

当協会、静岡県医師会、静岡県看護協会の3団体が 川勝静岡県知事及び出野副知事に面談し、提言を行います。

『自民党県連及び静岡県に医療政策関係の要望書を提出』

令和3年度静岡県予算における、地域医療構想の実現、医師・看護師の確保対策、医療安全対策への取組みの医療政策の充実について、要望活動を行いました。

「要望先」静岡県健康福祉部長 令和2年10月22日

自由民主党静岡県支部連合会 令和2年10月30日

時 言



「風評被害」

公益社団法人静岡県病院協会副会長 伊藤 孝
聖隷沼津病院 病院長

各種メディアで新型コロナウイルス感染症の情報があふれている昨今ですが、その中でも風評被害の記事がときどき目に留まります。この感染症に関する差別や偏見の実態には違法行為と言える悪質なことから不安が高じての過度な対応まで様々ようです。

特に医療機関にとっては患者数の減少、職員やその家族に対する暴言や嫌がらせ、子供たちへのいじめや登園拒否が報道されました。病院の窓が開いているだけでクレームがきたとか、病院前のバス停から職員がバスに乗ろうとしたところ「コロナがうつるから乗るな」と言われることもあったようです。インターネット上に個人情報や行動履歴が暴露されたりすることもあります。職員が発生源のクラスターが発生した病院では、非難の電話が鳴り続けたために対応に終始し、通常の業務ができないという被害もあったと聞いています。

各種団体、市町、県や国は、この感染症患者に対する誤解や偏見をなくすために様々な広報に努めています。全国知事会は「人権や風評被害に配慮した対策を法的措置も含め講じるように」との要望を国に提出しています。さらに政府も、知る権利と個人情報保護のはざまでゆれる報道機関に情報公開の在り方の検討を促しています。

私たち医療従事者は、偏見や差別に迎合せ

ず、情報発信は誤解のないよう正確にすることはもちろん、病気をよく理解し、十分な対策を立て、正しく恐れること、さらに「自分が不顕性感染者であるかも」という想定の下に行動することが、感染対策ひいては風評被害抑制につながるのでしょうか・・・・・・難しい。



時 言



「コロナ禍における歯科の役割」

公益社団法人静岡県病院協会理事 小澤 照雄
一般社団法人静岡県歯科医師会 副会長

新型コロナウイルス感染症による世界的危機状況の中、国内の感染者数が連日のように過去最多を更新しています。地域によっては、医療機関での患者さんの受け入れに余裕がなくなりつつあり、感染を抑えながらの経済活動は継続できるのでしょうか。

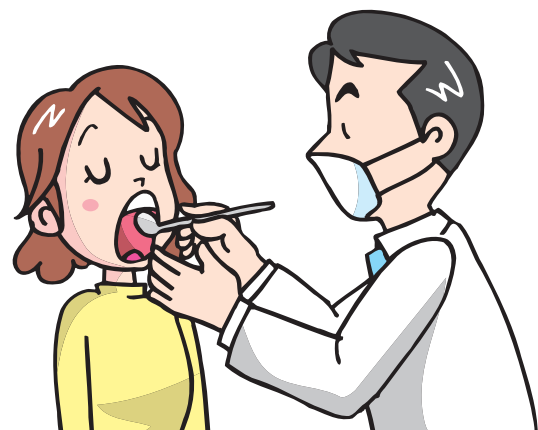
今夏の第2波では、夜の繁華街が主要な感染源となりましたが、第3波では様相が一変して、家庭内感染、職場での感染、高齢の感染者も増えています。

今回の流行拡大（第3波）の大きな特徴は、前の流行が収まらないままスタートしたことにあります。医療現場で悲鳴が上がる中、政府は地域除外の手続きすら決めていない結果、国と自治体の役割分担があいまいになり、除外の判断を押しつけ合って対応が遅れているのがよく見えます。国と地方が連携を強化し、感染防止策を機動的に打てる体制を整え、今は先ず感染封じ込めを優先し、強くブレーキを踏むべき時と思います。

今、医療現場は数字が示す以上に厳しい環境にあり、医療従事者の方々は、日々使命感を持って診療にあたっています。また、歯科においても受診控え、新しい生活様式における歯科医療のあり方など、歯科界全体が経験したことの無い難題に直面しています。人生100年時代の全世界型社会保障のキーワードは健康で、歯科の果たす役割は大きく、口腔

疾患の重症化予防、口腔機能低下への対応をしっかりと取り組んでいかねばなりません。医科歯科の連携、他職種との連携を取りながら、歯科という立場で協力していきたいと考えます。

更なるご指導をよろしくお願いいたします。



研修会開催状況（11月～12月）

各研修会の資料（ホームページ掲載について講師了解のあったもの）は、協会ホームページまたはふじのくに医療勤務環境改善支援センターホームページでご覧いただけます。

【第1回勤務環境改善研修会】（静岡県委託）

演 題：医療勤務環境改善支援医療を未来に繋ぐために
今、働き方改革を！

－No Change, No Future－

開催日：11月6日（金）（Web開催）

講 師：厚生労働省医政局医事課医師・看護師等働き方改革推進官
労働基準局労働条件政策課 医療労働企画官
安里 賀奈子 氏

厚生労働省の働き方改革担当官から、働き方改革の制度の詳細や、2024年4月の医師の時間外労働の上限規制適用までに各医療機関において取り組むべきことについて講演いただきました。

「各医療機関において取り組むべきこと」

ステップ1：時間外労働時間の実態を的確に把握

ステップ2：自施設に適用される時間外上限がどれになるのか
（A・B・Cのいずれの水準か）を検討

ステップ3：取り組むべき「短縮幅」を見極め医師労働時間
短縮計画を作成し、PDCAによる短縮

【第2回勤務環境改善研修会】（静岡県委託）

演 題：医療機関の経営とタスクシフティング
医師の労働時間の把握と短縮について
～その方法論の1つとしてのタスクシフト／シェア～

開催日：12月16日（水）（Web開催）

講 師：公益社団法人日本医業経営コンサルタント協会
理事・東京都支部長 眞鍋 一 氏

（静岡県医業分野等アドバイザー）

病院経営において最も大切なことは職員の確保であり、職員を有効に最大限活用できるよう、働くうえでの条件等が明確に理解され納得されることが必要であるとして、複数主治医制度の活用、勤務時間内の症状説明、かかりつけ医の活用、タスクシフト／シェアの具体的方法について説明がありました。これらの取組は、医師のためだけではなく、職員全員に対する業務見直しであることを説明し理解を得ることが必要です。

【医療機能分化連携促進研修会】（静岡県委託）

演 題：地域医療連携推進法人化の実際とその効果

開催日：12月10日（木）（W e b 開催）

講 師：地域医療連携推進法人 日本海ヘルスケアネット代表理事

山形県酒田市病院機構理事長

副院長 教授 患者安全推進部

栗谷 義樹 氏

地域連携型推進法人化に先駆的に取り組んだ日本海ヘルスケアネットの栗谷理事長から設立の経緯、共同事業とその効果、今後の課題について講演いただきました。

日本海ヘルスケアネットは、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構を始め、地区の医師会、歯科医師会、薬剤師会、3 医療法人、3 社会福祉法人が参加しており、ベット数は計2,000強となっています。病院経営を病院単位で考える時代は終わったとの考えにより、地域での医療介護費用の連結決算の必要性等について関係者が議論を重ね、平成30年に山形県知事から新法人としての認定を受けました。共同事業として参加法人間での人事交流・派遣や職員の共同研修、医療機能の集約化、地域フォーミュラリが実施されています。

【医療安全推進研修会】（静岡県病院薬剤師会共催）

テーマ：医療安全管理の全体像

開催日：12月18日（金）（W e b 開催）

講 師：名古屋大学医学部附属病院

副病院長 患者安全推進部部長 教授

長尾 能雅 氏

P 管理図による“現状把握”と“介入判断”の具体的手法を示して、「問題と改善の可視化により“理解”と“納得”を得る」ことの重要性について講演いただきました。

また、コロナ禍における患者安全の役割は、病院全体の有事対応を支援しつつ、同時にそれらを俯瞰し、医療の質を保ちながら、患者の安全管理に全力を尽くすかであるとお話がありました。

このほか、令和2年11月20日（金）に勤務環境安全推進研修会を開催（W e b）しました。

演 題：ハラスメントがもたらす医療機関のリスク

講 師：公益財団法人21世紀職業財団 客員講師

松好登紀子 氏

「令和2年度臨時総会を開催しました」 ～新たに社会福祉施設感染防止対策事業を実施します～

令和3年1月8日に臨時総会を開催し、令和2年度変更事業計画及び収支補正予算についてお諮りし、承認されました。

この議案は、静岡県から新たに社会福祉施設感染防止対策事業を受託するため、今年度の当初事業計画を変更し、予算を1,360万円増額するものです。

社会福祉施設感染防止対策事業は、高齢者施設等での新型コロナウイルス感染症のクラスター発生を防止するため、これら施設での感染防止についての、訪問指導や相談対応を行うものであり、総会での計画及び予算承認により、1月8日付けで静岡県と当協会は委託契約を締結しました。

「ふじのくに医療勤務環境改善支援センター ホームページの運用を開始しました」

～アドバイザー派遣をご利用ください～

医療機関の働き方改革に必要な情報を提供する「ふじのくに医療勤務環境改善支援センターホームページ」の運用を開始しました。

ホームページアドレス

<https://www.fujinokuni-kinkai.jp>

静岡県病院協会ホームページ

(<http://www.shizuoka-bk.jp>) の 「リンク」「その他」からもアクセスできます。

各医療機関へのアドバイザー派遣も、このホームページからお申込みいただけます。

ふじのくに医療勤務環境改善支援センターアドバイザー派遣は、労務管理、医業分野（医業経営、ワークライフバランス等）の専門のアドバイザーが、それぞれの医療機関の働き方改革を進めるうえでの相談事項について、医療機関に出向いて助言を行いますのでご利用ください。派遣料は無料です。

9ページに派遣を受けた病院の記事を掲載しましたのでご覧ください。



ふじのくに医療勤務環境改善支援センターのアドバイザー派遣を受けて

伊豆赤十字病院（アドバイザー派遣日 令和2年11月14日）

この度、「ふじのくに医療勤務環境改善支援センター」よりアドバイザーを派遣していただき、ハラスメント研修を実施いたしました。

当院では、職員の連携や中堅・若手職員の育成等を考えるため、階層別（課長・師長）研修を初めて実施することになり、その中に研修を組み入れ、働きやすく風通しの良い職場環境を考えてもらいました。

その際、同センターの相談内容は多様にあります。当院が必要としている内容へ柔軟に合わせていただき、また、講師の方も法的根拠や他施設での事例をお話され、日頃からハラスメントを知ってはいても改めて深く考えさせられる大変良い機会となりました。

今後は、当院で不十分な働き方改革、働きがい（キャリア形成・支援）と云った問題にも相談・活用させていただき、勤務環境の改善を図っていきたいと思っております。



北斗わかば病院（アドバイザー派遣日 令和2年9月3日 10月14日）

それぞれの分野のアドバイザーの方々より、勤務環境の改善に関する的確なお話やご指摘をいただき、色々なことが少しずつ動き出しました。

勤務環境改善計画を推進していくうえで、病院長主導のもと推進チームを衛生委員会に置くことを決め、誰かがやってくれたらではなく、自分達ができるのだという思いで、委員会メンバーが各々の部署で現状分析を進め、現状の把握や課題の抽出をしています。抽出した問題点をどうしたら改善できるか迄をひとつの流れとして職員全体で取り組んでいます。そうした取り組みを進めていく事が、働き易く働き甲斐のある職場づくりに繋がっていくのだと思います。

また今回訪問いただいた際に、同一労働同一賃金の職務評価等の必要性について、職員へわかりやすく説明していただき、コンサルタントの活用を含め、アドバイザーの方から助言を受けながら現在進行形で取り組んでいます。

何気なく応募をした事で解決できたことがたくさんあります。ありがとうございました。

病院紹介

より良い医療の提供を行うとともに、市民の健康増進に貢献することで、市民の信頼に応えます



焼津市立総合病院
病院事業管理者兼病院長 関 常 司

焼津市立総合病院は、昭和22年に設立された協立焼津病院を前身としており、昭和33年に市立病院として開設、昭和58年に現在地に移転しました。現在は地域に急性期医療を提供する公立病院としてスタッフ一同が研鑽を重ね、日々の診療を行っています。

焼津市を含む志太榛原保健医療圏では4つの公立病院がそれぞれの長所や特徴を活かしつつ、互いにカバーしあっています。この中で当院は産婦人科、小児科が特に充実しており、当院の地域周産期母子医療センターが当医療圏における周産期医療の中核的な役割を果たしています。また当院の脳神経内科、脳神経外科、およびIVR科（放射線科）を加えた脳卒中センターも当医療圏有数の陣容であることから、焼津市のみならず広域からの救急搬送を受け入れて



多職種医療チーム

います。腎臓内科、泌尿器科が充実しているのも特徴です。

地域の周産期医療を守る

当院は地域周産期母子医療センターに指定さ



ドローンにて撮影した病院全景

れており、通常の周産期医療の提供はもちろん、不妊治療の提供も行っています。焼津市周辺の市町では、産婦人科が不足している現状があります。そのため市外からの患者さんも多数受け入れており、志太榛原地域の中核的存在としての当院の機能を今後も維持、強化していく予定です。

DWIBS検査

DWIBS検査とは、MRIで全身を撮影し、がんの発生・転移などを検査するものです。放射線被ばくがなく、またPET検査と比べて安い費用で繰り返し検査ができます。当院では、平成28年からがんの発見や転移の検索、化学療法や放射線治療の効果判定など日常診療で積極的に使用し始め、その有用性を確認したため、平成29年11月からは総合がん検診のひとつとしても導入しています。また、平成31年3月からはDWIBS検査法を乳腺領域に特化させ、さらに高精細に撮像を行う「痛くないMRI乳がん検診」を導入しました。「被ばくなし」「痛くない」「つぶされない」「さわられない」ことが特徴の新しい乳がん検診です。



DWIBS検査を行う3.0T MRI装置

ダヴィンチXi（ロボット手術用医療機器）

当院では令和元年7月よりダヴィンチXiによるロボット支援手術（泌尿器科領域）を開始しました。従来の手術に比べて術中の出血が少なく、手術時間も短く、患者さんの身体的負担が軽減されることが期待されています。現在（令和2年11月19日）までに前立腺癌手術42例、腎



ダヴィンチXi

癌部分切除術4例を施行しています。

焼津の食材を使った病院食

当院では焼津で水揚げされる海の幸や地元の旬の食材を使用したもの、季節の行事に合わせた彩りもあざやかなものなど、レパートリー豊かな病院食を直営により提供しており、患者様からも当院の病院食はおいしいとの評価をいただいています。

また、地域のみなさまの健康増進の手助けになれるよう、当院ホームページにて減塩メニューを提供しています。



当院病院食の一例（季節膳）

病院紹介

ヒューマニズムとアカデミズム

—真に人に優しい医療を目指して—

独立行政法人 労働者健康安全機構 浜松労災病院

院長 鈴木 茂彦



当院は1967年に労働災害や職業病治療を目的として設立されましたが、現在はすべての疾患に対して、高度な専門的医療を提供する地域の基幹病院として生まれ変わっています。

私が大学卒業後2年目に勤務した病院が当院です。私は形成外科医として勤務しましたが、診療科、部門、職種の分け隔てなく一丸となって患者の治療にあたるという当院の基本的姿勢に感動しました。2018年に病院長として戻ってまいりましたが、かつて在職していた頃と異なり、免震構造を持った安全できれいな病院に建て替わっています。当院がさらに発展し、各分野で最先端の質の高い医療のできる、真に患者に優しい温かみのある病院になるよう目指しています。

救急医療の充実

浜松市内の救急輪番病院の1つですが、浜松市に限らず磐田市等からの救急患者も受けており、病床数当たりの救急搬送数は近隣病院中ではトップクラスです。特に循環器内科は、開設当初から心臓救急を積極的に受け入れてお



外来待合室（12月装飾）

り、カテーテル検査や冠動脈インターベンション（PCI）を迅速に施行できる体制を整えています。他の診療科の救急医療体制も充実しており、2020年度静岡県救急医療功労者知事表彰を受けました。



心臓カテーテル検査



脳血管内治療

最近新しい部長が着任して、充実した診療科**① 心臓血管外科**

MICS（低侵襲心臓手術）やOPCAB（人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術）、ステントグラフト治療などから、大動脈解離の人工血管置換手術に至るまで、難易度の高い治療を行いながら好成績をあげています。

② 脳神経外科

開院と同時に静岡県内で初めて開設され、脳神経外科領域の幅広い疾患の治療を行ってきました。新部長着任後は特に脳血管障害の治療に力を入れており、24時間体制で治療に当たっています。

③ 形成外科

全国で2番目に始めたレーザー外来や皮膚外科が特色でしたが、現院長着任後はケロイド・瘢痕、皮膚の再生医療にも力を入れ、さらに新部長着任後は皮膚がんや、手足先天異常の専門治療を充実させ、さらに手外科専門外来も開設しました。

その他の取り組み**① 治療と仕事の両立支援への積極的取り組み**

がんや糖尿病などの治療をしながら仕事を続ける患者さんの悩み・困りごとに対して、サポートを行っています。

② 地域医療連携室の強化

専任の地域医療連携室長を任命し、新型コロナ



心臓血管外科手術

ウイルス感染（COVID-19）が広がる中で、細心の注意を払いながら地域の医療・介護関連施設との連携を強化しています。市民公開講座や病診連携セミナーも担当しています。

③ 学術活動の充実

半年毎に院内学術集談会を行っている他、2020年12月には当院主催で第68回日本職業・災害医学会学術大会を開催しました（誌上開催）。

真に人に優しい医療を目指し続けたいと思っていますので、今後とも当院に温かいご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



形成外科外来診療



地域医療連携室

事務局からのお知らせ

第60回静岡県病院学会開催のご案内

テーマ 新型コロナウイルスの来襲は医療現場に何をもたらしたか

- 1 主 催 公益社団法人静岡県病院協会
- 2 日 時 令和3年2月27日（土）13：00～16：30
- 3 会 場 グランディエールブクトーカイ 4階 シンフォニー
静岡県葵区紺屋町17-1（JR静岡駅北口 葵タワー）
電話 054-273-5225
[会場参加+Web配信により実施]

4 内容・日程

基調講演

国立国際医療研究センター 国際感染症センター長
大曲 貴夫 氏

シンポジウム

「事例発表」 国際医療福祉大学熱海病院 病院長 教授 池田 佳史 氏
榛原総合病院 副院長 新型コロナウイルス対策チーム長
金 憲徳 氏
浜松医療センター 感染症内科 医長 田島 靖久 氏

「行政説明」 静岡県健康福祉部医療局疾病対策課長 後藤 幹生 氏

「全体討議」

5 参加費 無 料

6 参加方法及び期限

（公社）静岡県病院協会ホームページからお申し込みください。

(<http://www.shizuoka-bk.jp/>)

申込期限：令和3年2月12日（金）

問合先 公益社団法人静岡県病院協会 事務局

TEL/ 054-252-6326